

教員活動評価実施報告書

令和 3 年度

埼玉大学

教育・研究等評価室

1. 概要

本学では、「教員個人の活動状況を点検することによって、その活動の一層の活性化を図り、本学の教育・研究の質の向上と運営等の改善に資する」という目的の下に、例年、教員個人の教育研究等の活動評価を実施している。令和2年度の教員活動についても、下表のとおり評価を実施した。

実施期間	教員活動報告書提出期間：令和3年6月17日（木）～7月30日（金） 部局長評価期間：令和3年8月6日（金）～11月19日（金）
対象者	令和3年4月1日現在で本学に在籍している教員 ※新規採用教員、休職中の教員及び教諭は除く
対象領域	4領域（教育活動、研究業績、大学運営への貢献、社会への貢献）
評価対象期間	原則過去3年間
評価対象者	409名（提出率99%）

2. 評価の実施体制、方法

「埼玉大学における教員活動評価の基本方針」、「埼玉大学における教員活動評価の実施要項」、各部局の教員活動評価実施要領に従い、評価対象教員が提出した令和2年度実績分の教員活動報告書に基づいて、部局長が所属教員の評価を行った。

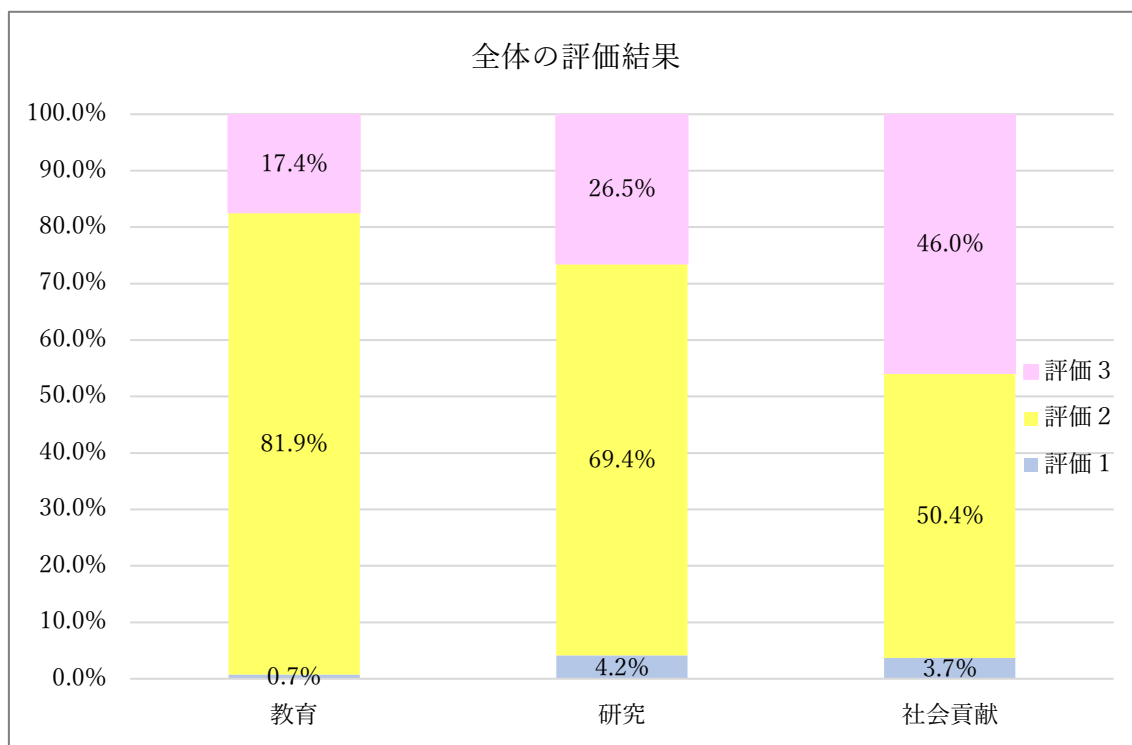
3. 部局別評価対象教員数

人文社会科学部	92名
教育学部（附属教育実践総合センター含む）	93名
理工学研究科	201名
教育機構	11名
研究機構	7名
情報メディア基盤センター	2名
国際本部	3名

4. 評価の尺度

3. 活動は極めて優れている
2. 活動は期待される水準に達している
1. 活動は不十分で改善を要する

5. 全体の評価結果



埼玉大学は、地域活性化の中核となり、世界/日本の教育研究拠点として光を放つことを目指して、平成 28 年度からの第 3 期中期目標・中期計画期間においては「埼玉大学 All in One Campus at 首都圏埼玉 ～多様性と融合の具現化」という新たなビジョンの下で、「イノベーションの創出と地域活性を目指した融合科学研究・開発の推進と人材育成」、「地域ニーズに即した人材育成と教員養成」、「強みを有する分野の国際教育研究拠点化」という 3 つの戦略をたて、様々な取組を行っている。これを踏まえ、教育研究拠点、地域活性化というキーワードに対応した教員活動である教育、研究、社会貢献の 3 領域について、教員活動の評価結果を概観する。

大学全体でみると、教育領域で 3 の評価を受けた教員の割合は約 17.4%、2 の評価は約 81.9%、1 の評価は約 0.7%であった。研究領域では、3 の評価は約 26.5%、2 の評価は約 69.4%、1 の評価は約 4.2%であった。社会貢献領域では、3 の評価は約 46%、2 の評価は約 50.4%、1 の評価は約 3.7%であった。前回の評価と比べると、3 の評価を受けた教員の割合が、教育領域で 1.6 ポイント、研究領域で 1.5 ポイント、社会貢献領域で 3 ポイント低下している。

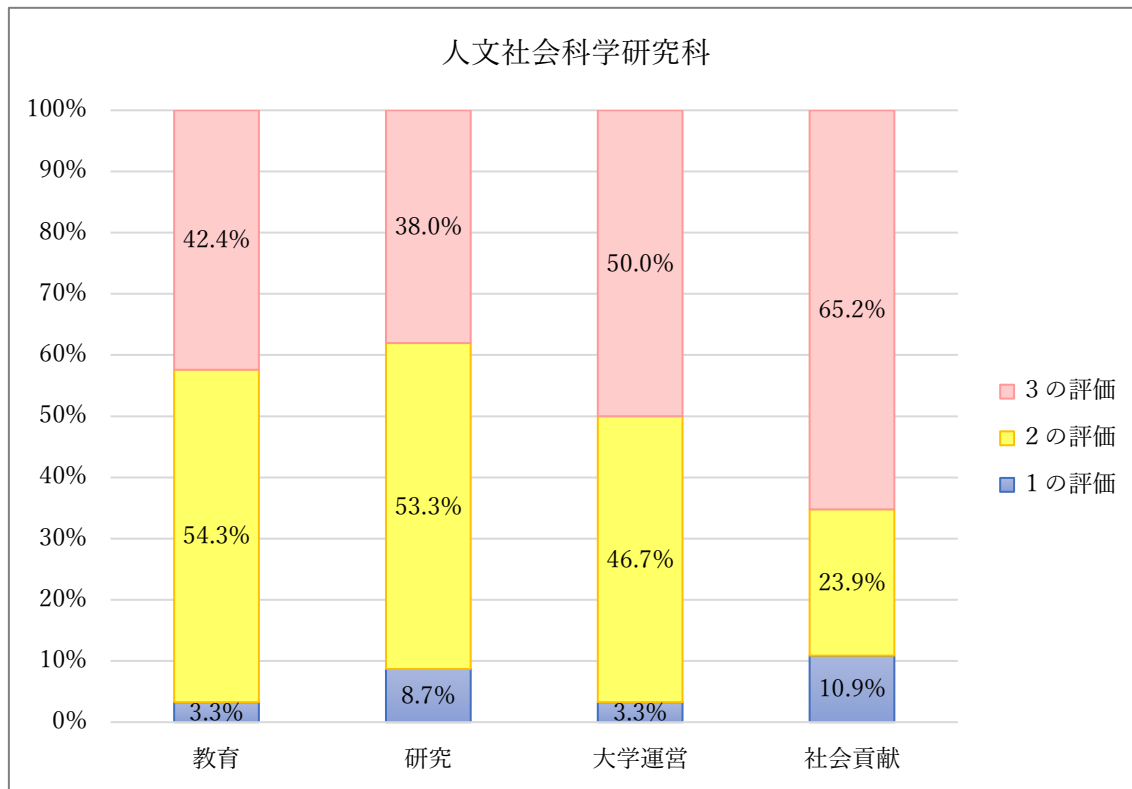
各部局の評価は、評価基準の厳格化も含めて、今年度も全体としておおむね適切に行われていると評価することができる。もっとも、部局横断的に見ると、領域によっては各部局ごとに評価の分布が異なっている。部局によって評価基準が異なるために単純な比較ができないことはもちろんであるが、3 の割合の相対的に高い領域のある部局には、より高い水準を目指しての評価基準の検討を望みたい。この点で、理工学研究科における評価基準の見直

しの取組は高く評価する。また、各部局で把握している課題については、次年度へ向けて、教員活動のさらなる活性化のために改善に積極的に取り組むことを期待する。今年度は、部局長コメントは、これまでと比較して、かなり丁寧に記載いただいた。ご尽力に感謝する。ただ、評価及び改善の取組みを可視化することは、今後も求められるので、とくに評価の結果明らかになった教員活動の課題とそれに対する改善策について、引き続き丁寧な部局長コメントをお願いしたい。さらに、本学の教員活動の優れた点を外部に積極的に公表していくことも必要となるので、そのような活動について積極的にコメントで言及することも求めたい。

令和4年度から、第4期中期目標中期計画期間がスタートする。本学は、第3期の成果を踏まえて、より一層の大学改革を進めることとしている。各教員には、新たな中期目標中期計画に即して、活動の一層の向上に努めることを望む。

6. 部局別評価結果

(1) 人文社会科学研究科（評価対象人数：92 名）



	教育領域		研究領域		大学運営領域		社会貢献領域	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3 の評価	39	42.4%	35	38.0%	46	50.0%	60	65.2%
2 の評価	50	54.3%	49	53.3%	43	46.7%	22	23.9%
1 の評価	3	3.3%	8	8.7%	3	3.3%	10	10.9%

○部局長のコメント

①評価の高い教員数

12 ポイントの教員 11 名、11 ポイントの教員 16 名、10 ポイントの教員 31 名

②評価の低い教員数

6 ポイントの教員 3 名

③評価結果の総括、問題点等

人文社会科学研究科は学際系（教養学部）と経済系（経済学部）の2つの系で構成されている。しかし、それぞれの系の学生ニーズや研究対象・手法は必ずしも同質ではない。そこで、それぞれの系の特質に基づき、属する教員の活動を評価した。学際系においては、人文学（哲学、言語学、芸術論、歴史学、考古学、文学、文化研究など）および社会科学（国際関係論、社会学、地理学、人類学）の特性に鑑みて、各教員の教育・研究ならびに大学業務・社会貢献の各領域の活動を評価したが、全体として良好であった。ただし、コロナ禍の影響が考えられるところだが一部の教員の活動にコメントすべき点があった。

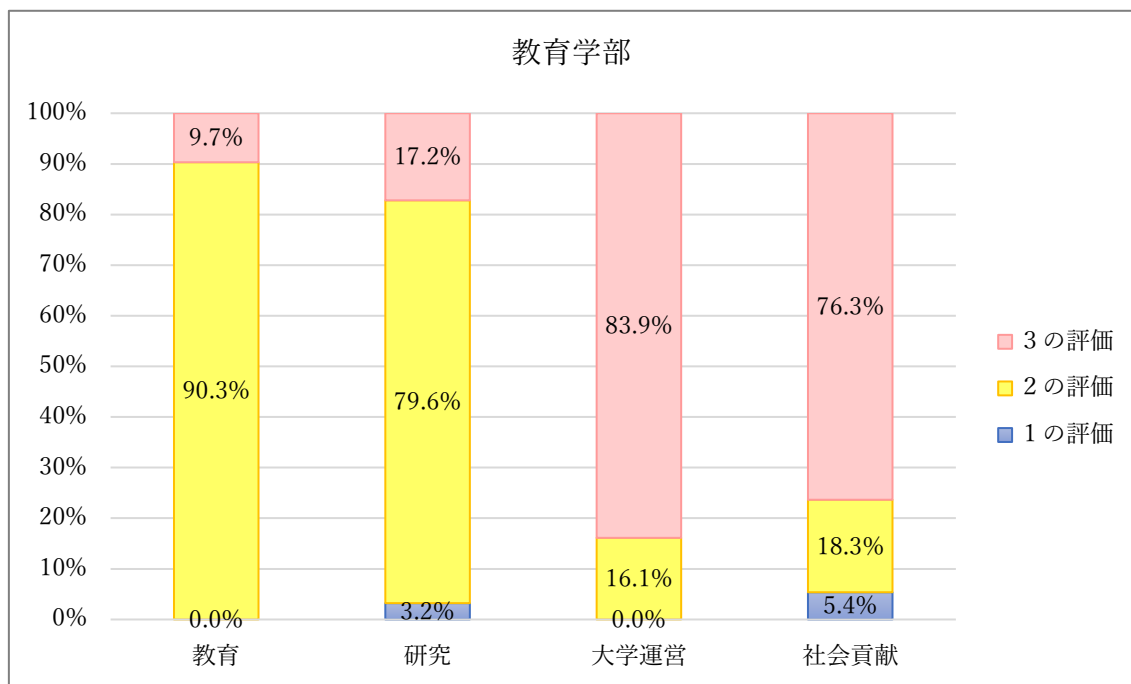
また、経済系においては、研究領域とともに所属するメジャー（経済分析、国際ビジネスと社会発展、経営イノベーション、法と公共政策）の性格を考慮しながら、各教員の教育活動、研究活動、大学運営への貢献、および社会への貢献の各領域を評価した。全体としては良好であった。ただし、数は少ないが、一部の教員の活動に十分でないところが見られ、その改善を促した。

総括すれば、それぞれの系の特質を生かした教員活動をしていると評価できる。

④特記事項

特になし。

(2) 教育学部 (附属教育実践総合センター含む) (評価対象人数: 93 名)



	教育領域		研究領域		大学運営領域		社会貢献領域	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3 の評価	9	9.7%	16	17.2%	78	83.9%	71	76.3%
2 の評価	84	90.3%	74	79.6%	15	16.1%	17	18.3%
1 の評価	0	0.0%	3	3.2%	0	0.0%	5	5.4%

○部局長のコメント

①評価の高い教員数

すべての領域において「3」と評価された者: 1 名

②評価の低い教員数

いずれかの領域において「1」と評価された者: 6 名

③評価結果の総括、問題点等

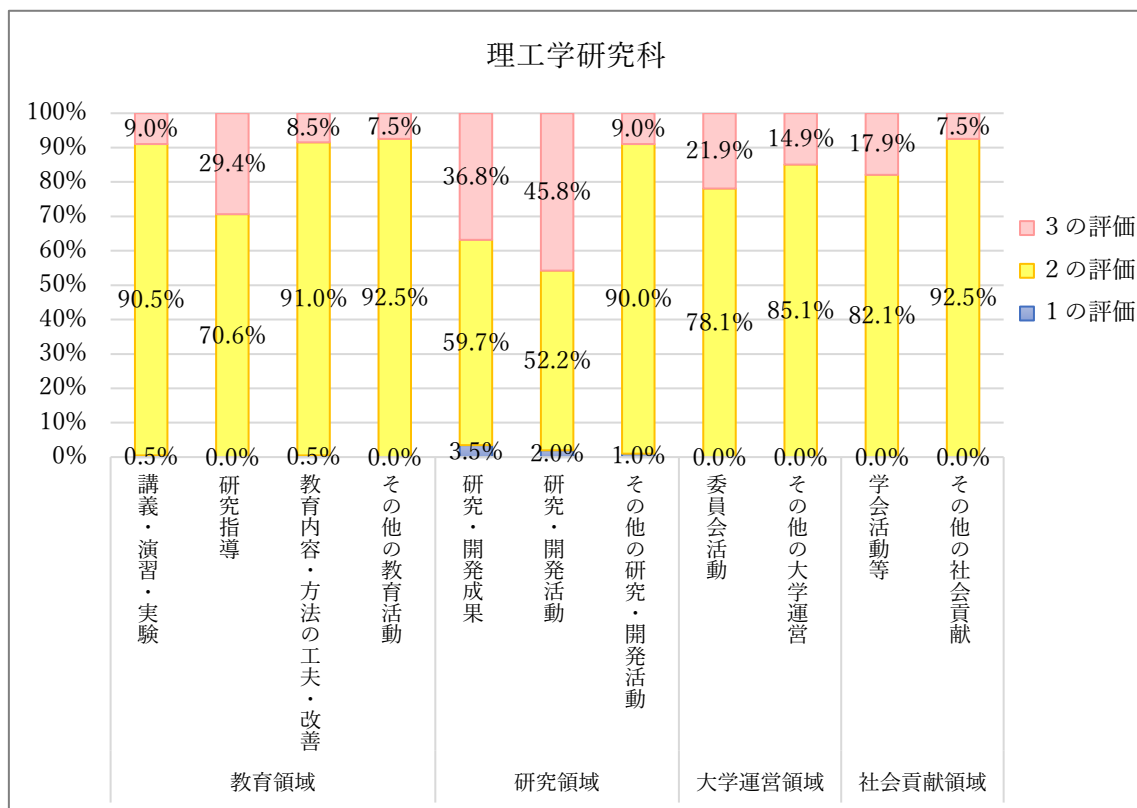
全体的に「活動は期待される水準に達している」という「2」を基本とし、「活動は極めて優れている」を「3」、「活動は不十分で改善を要する」を「1」とした。いずれかの領域において「1」と評価された者は、6 名で、2020 年度の「10 名」から大幅に減少した。

また、「大学運営」と「社会貢献」の領域で「3」が多い結果となった。教育学部の性格として、実習運営など学部運営に関わる業務が多くあること、各種審議会委員等の「社会貢献」活動が重要な位置を占めることを反映する結果となった。

④特記事項

特になし

(3) 理工学研究科 (評価対象人数: 201 名)



	教育領域							
	講義・演習・実験		研究指導		教育内容・方法の工夫・改善		その他の教育活動	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	18	9.0%	59	29.4%	17	8.5%	15	7.5%
2の評価	182	90.5%	142	70.6%	183	91.0%	186	92.5%
1の評価	1	0.5%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%

	研究領域					
	研究・開発成果		研究・開発活動		その他の研究・開発活動	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	74	36.8%	92	45.8%	18	9.0%
2の評価	120	59.7%	105	52.2%	181	90.0%
1の評価	7	3.5%	4	2.0%	2	1.0%

	大学運営領域				社会貢献領域			
	委員会活動		その他の大学運営		学会活動等		その他の社会貢献	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	44	21.9%	30	14.9%	36	17.9%	15	7.5%
2の評価	157	78.1%	171	85.1%	165	82.1%	186	92.5%
1の評価	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

○部局長のコメント

①評価の高い教員数

6点高い教員1名、5点高い教員6名、4点高い教員26名、3点高い教員38名、2点高い教員55名、1点高い教員49名

②評価の低い教員数

3点低い教員1名、2点低い教員2名、1点低い教員3名

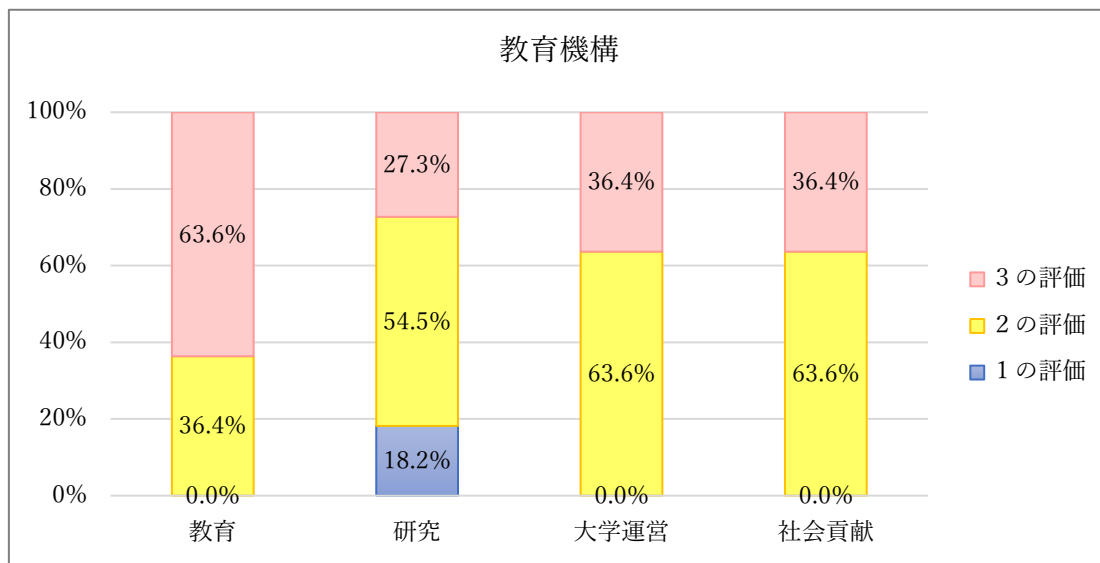
③評価結果の総括、問題点等

本年度より理工研の評価指標をより明確化した。特に「1」の評価を付ける場合について評価基準を明確化することで、教育、研究活動における教員の努力をより評価に反映させやすくすると共に、教員としてやらねばならない仕事を明確化し、努力を促すようにした。今後は「3」の評価を付ける場合の基準についても適宜見直す必要があるように思う。適切な評価を行うことで、業務の偏りによる不公平感をなくすことが、大学全体の活性化に繋がると考えている。

④特記事項

特になし

(4) 教育機構 (評価対象人数: 11 名)



	教育領域		研究領域		大学運営領域		社会貢献領域	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	7	63.6%	3	27.3%	4	36.4%	4	36.4%
2の評価	4	36.4%	6	54.5%	7	63.6%	7	63.6%
1の評価	0	0.0%	2	18.2%	0	0.0%	0	0.0%

○部局長のコメント

①評価の高い教員数

12 ポイントの教員 1 名、11 ポイントの教員 2 名

②評価の低い教員数

7 ポイントの教員 1 名

③評価結果の総括、問題点等

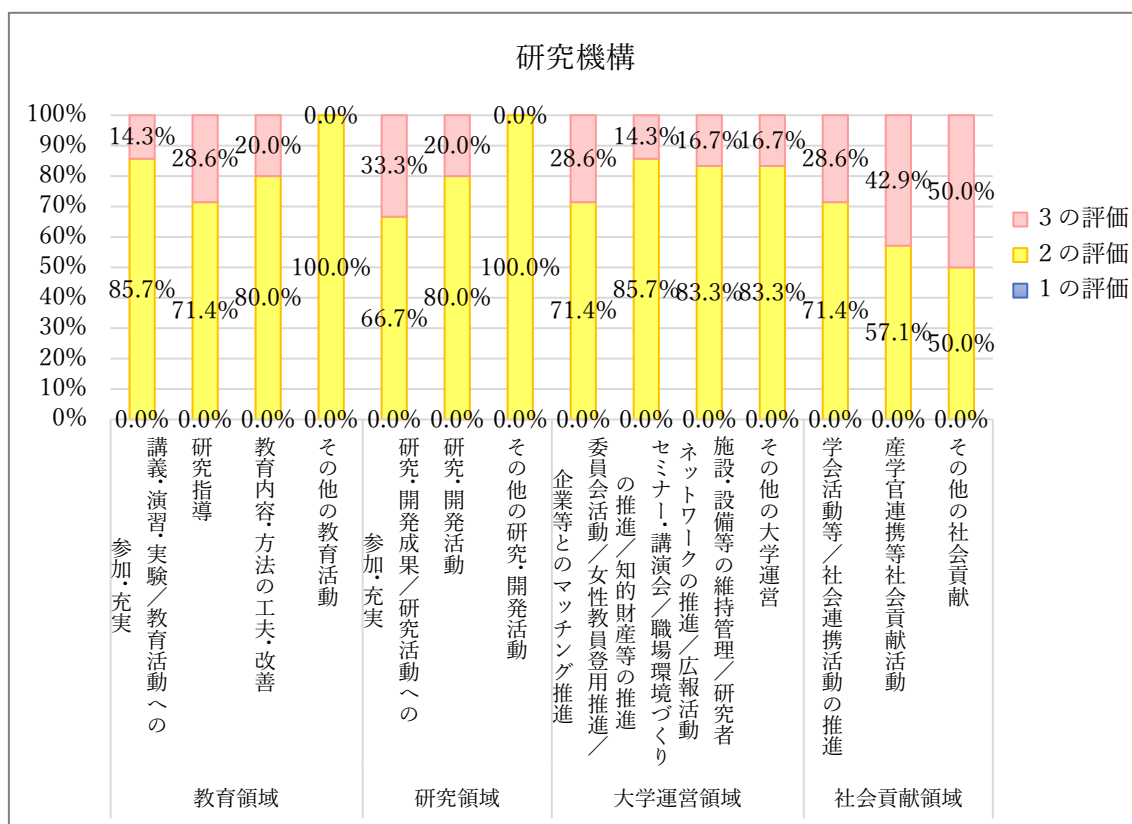
教育機構所属教員は業務の性格が大きく異なるので、評価ポイントを設定するのに難しいところがある。

英語教育開発センター所属教員の評価がわずかではあるが、低い傾向がみられる。当センター所属の教員からも評価されない業務の扱いについて意見が出ているので、ポイントの算出方法について検討してみたい。

④特記事項

特になし

(5) 研究機構 (評価対象人数: 7 名)



	教育領域							
	講義・演習・実験／教育活動への参加・充実		研究指導		教育内容・方法の工夫・改善		その他の教育活動	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	1	14.3%	2	28.6%	1	20.0%	0	0.0%
2の評価	6	85.7%	5	71.4%	4	80.0%	5	100.0%
1の評価	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

	研究領域					
	研究・開発成果／研究活動への参加・充実		研究・開発活動		その他の研究・開発活動	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	2	33.3%	1	20.0%	0	0.0%
2の評価	4	66.7%	4	80.0%	5	100.0%
1の評価	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

	大学運営領域							
	委員会活動／女性教員 登用推進／企業等との マッチング推進		セミナー・講演会／職 場環境づくりの推進／ 知的財産等の推進		施設・設備等の維持管 理／研究者ネットワー クの推進／広報活動		その他の大学運営	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	2	28.6%	1	14.3%	1	16.7%	1	16.7%
2の評価	5	71.4%	6	85.7%	5	83.3%	5	83.3%
1の評価	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

	社会貢献領域					
	学会活動等／社会連携活 動の推進		産学官連携等社会貢献活 動		その他の社会貢献	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	2	28.6%	3	42.9%	1	50.0%
2の評価	5	71.4%	4	57.1%	1	50.0%
1の評価	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

※研究機構では、各センター等で評価項目が異なるため、各評価項目の合計人数が一定ではない。

○部局長のコメント

①評価の高い教員数

評価対象教員7名中3名

②評価の低い教員数

該当なし

③評価結果の総括、問題点等

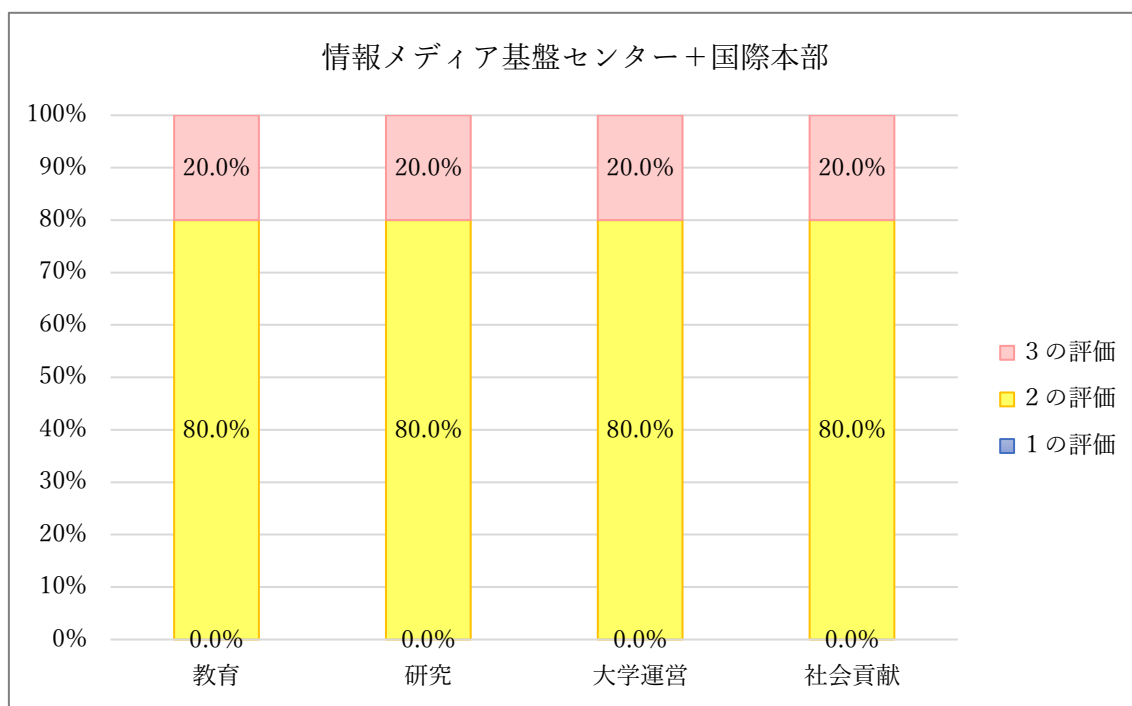
科学分析支援センター、オープンイノベーションセンター、研究企画推進室に所属するいずれの教員も積極的に業務に取り組み、概ね良好な成果を上げている。科学分析支援センターの4名の教員を除けば、担当業務の類似性は教員間で低く、評価項目・基準も異なるため、評価結果から単純に教員間の比較を行うことは困難である。また、業務が多様化しているセンター等については、評価項目・基準の継続的な見直しが必要である。

④特記事項

特になし

(6) 情報メディア基盤センター(評価対象人数:2名)+国際本部(評価対象人数:3名)

※評価対象人数が少人数のため併せて記載をする。



	教育領域		研究領域		大学運営領域		社会貢献領域	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3の評価	1	20.0%	1	20.0%	1	20.0%	1	20.0%
2の評価	4	80.0%	4	80.0%	4	80.0%	4	80.0%
1の評価	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

○情報メディア基盤センター 部局長のコメント

①評価の高い教員数

特になし

②評価の低い教員数

特になし

③評価結果の総括、問題点等

教員は各々活発に教育・研究活動をしており、特に問題点はない。

④特記事項

特になし

○国際本部 部局長のコメント

①評価の高い教員数

特になし

②評価の低い教員数

特になし

③評価結果の総括、問題点等

いずれの教員も、求められる水準以上の業務を遂行していると判断される。

④特記事項

特になし